



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第435号

感嘆することをすべての前提に

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

先日、私は6月17日(月)から21日(金)まで、別府市の亀川にあるイエスのカリタス修道女会が運営する黙想の家において黙想会にあずかりました(指導は大分教区長の森山信三司教様)。二週間前には能登半島を訪れていたこともあり、自分が周囲にある様々な現実と向き合っていくために、一人の信徒として、一人の司祭として、今後、どんな意識、どんな心構えが必要になってくるのかを意識させられる良い機会になったと思います。

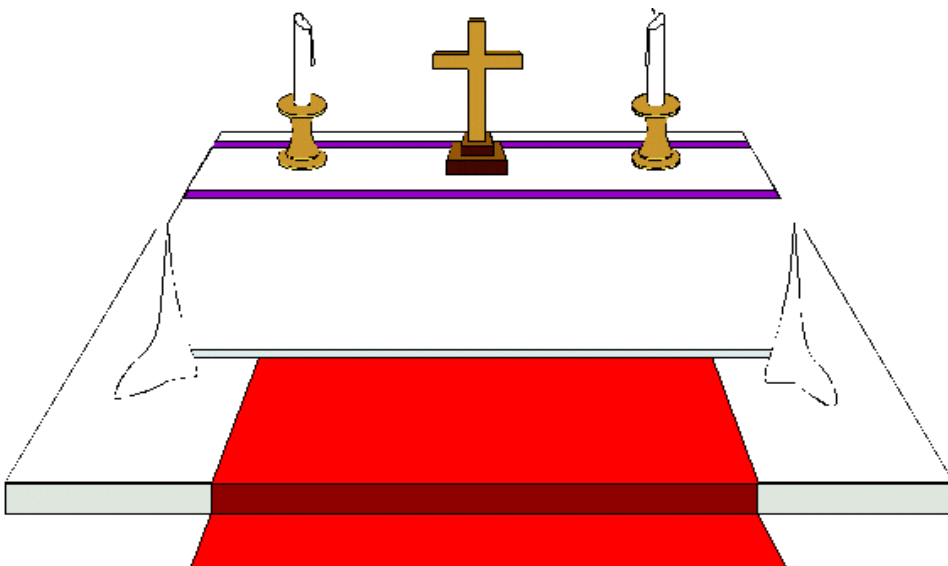
微力ながらも支援活動をとおして被災者の方々の役に立っていることを喜びとしつつも、半年も経っても倒壊した家屋や建物がそのままである状況を目の当たりにし、その喜びをかき消すほどの現実があることを実感させられた被災地での時間。老齢の体に鞭打ってミサに参加し、教会から離れている家族のためにゆるしの秘跡にあずかる信徒の方や、ご自分が洗礼を受けているわけではないけれど、受洗している子どもたちをミサに連れて来る方の姿を見て、励ましや勇気をいただきつつも、信仰に基づく生活が本来の人間の姿に気付かせ、社会をより良いものにしていくという宗教の持つ本来の意味が深められず、信仰生活を送る意義が分からない人々にどのように接すればいいのかに悩む日々。そもそも、神が天地を創られた際に断言されたように(創世記2・18参照)、人と人とが助けあうことなしに社会は機能しないものであるとの理解が欠落してはならないことは言うまでもないため(新共同訳聖書もフランシスコ会訳聖書も「人」となっているため、創世記2・18の記述は単に結婚についての教えではないと読むべきという解釈)、被災地を支援すること、苦しんでいる方々を支援すること、信仰を伝えていくこと、信仰生活の意義に気付かせることについても、神の意志を知る

教会学校のページ	3面
こころの会	3面
幼稚園から	4面
海嶺	5・6面
今月の聖人	6面
委員会等報告	7・8面
お知らせ	8面

ことが始まりであり、原動力でもあるという理解は欠かせないはずです。だからこそ、私は黙想会を経て、あらためてキリストの思いが教会を導き、その中の私をも導くことを信じようと決意するに至りました。

黙想会の講話の中で、森山司教様は教皇フランシスコの使徒的書簡『わたしはせつに願っていた』の内容に触れ、ミサに代表されるキリスト教祭儀のもつ豊かさに気付かない現代人に対する教皇の思いを紹介して下さいました。祭儀において象徴（しるし）が必ず伴うが、それは何かハッキリとしないもの、掴めないかのように理解されている。そうではなく、体験を促すものであって、その体験をもとにして驚嘆が生まれる。祭儀に参加していても驚嘆することがないから、現代人は祭儀を掴みどころのないものとし、ただ参加しているだけになっている。と。そこで、森山司教様が例に挙げられたのは信号機と国旗との関係で、信号機は単に「進みなさい」や「止まりなさい」を意味する象徴だが、国旗はその後ろに存在する国家を象徴するもの。国を大事にすることと同じ意味であると話されました。

私は信仰の感覚が必要であることを機会ある毎に言ってきました。感覚がなければ、祭儀は容易に形骸化していきますし、その状況からは驚嘆は生まれて来ないでしょう。まずは、主任司祭として、皆さんの持つ信仰の感覚が深まっていくように、そして、その感覚を携えて祭儀にあずかり、驚嘆が生まれていくよう、まずは私自身の信仰の感覚を研ぎ澄ませていきたいと思います。皆さんも、信仰生活の中で祭儀にあずかり、驚嘆する体験を糧にしながら、すべての人との関わりが深まっていきますように。





教会学校のページ



教会学校もメンバーが増え6月23日の学校には、子供たち十数人、親、指導メンバーも勢ぞろいして図書室も満杯状態での勉強会となりました。

7月20日(土)には、直方教会の教会学校関係者との、交流会が企画されています。昼はプール遊び、夜にはベトナム青年会とも合流、バーベキューなどが予定されています。子供たちにとっては夏休み初日となる20日、大いに楽しんでください。詳しくは来月号で報告します。



こころの会

これまで、教会の白壁をスクリーン代わりにしていましたが、100インチ以上の本格的なスクリーンを購入していただきました。併せて6本のロールカーテンも入り、上映効果が格段と上がりました。他の小グループでも活用できます。

スタンドグラス、塔からの光線は防ぎようもありませんが、格段に向上した上映効果に、参加された方々も満足されたようです。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 7月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

来月のA組お楽しみ会に向けて、子ども達と畑のじゃがいもを収穫しました。収穫したじゃがいもを見て、「大きいね」「丸い形や、長い形があるね」とお話している子ども達でした。手で触ったり、においを嗅いだり、たくさん観察していました。お楽しみ会で作るカレーライスの具材に入れる野菜(枝豆、とうもろこし、オクラ、



トマト)は、子ども達と何を入れるかクラスで話し合っ
て決めました。野菜が日に日に大きく育っていくのを観
察しながら、収穫を楽しみにしている子ども達の姿が見
られます。



TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



ビワの樹に、今年もたくさんの実がつき、豊作でした。ま
だ寒い冬に花を咲かせ、小さな緑の実が、ぐんぐん大きくな
り、どんどんオレンジ色になっていくのを観ました。そして、
「ビワ、ですよ！」小さな手に載せてもらい、大事そうに持
っていました。

たくさん採れたので聖母幼稚園の保育室やマリア子どもの
家のご家庭にもおすそ分けがありました。

また、畑やプランターで、ジャガ芋掘りをしました。枯れた茎を引っ張ると、土の中の白い
茎に中・小のお芋がたくさん付いて出てきました。



収穫したお芋は、エプロンを着けた子ども達が順番に洗い、
次の日の朝、蒸したジャガ芋になりました。柔らかくて美
味しかったですよ。

TEL : 050 5212 7759

[https : www.mariahouseofchildren.jp](https://www.mariahouseofchildren.jp)

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

海嶺 (かいいい)

～天保時代、初の日本語訳聖書に携わった3人の漂流者達の物語～

過日、教会の図書室から「聖書・邦訳の歴史」という本をお借りした。講談社学術文庫の一冊で少々お堅い本であることはパラパラと一読しただけでも判る。何に興味を持ったかという「ギュッラフ」という人名だ。

長い間お目にかからなかった個人名だが、確かに聞き覚えのある名前だった。改めて「ギュッラフ」という名が出ている箇所を流し読みしてみると、音吉（おときち）という個人名やヨハネ福音書、「はじめに賢いものござる」と言った翻訳箇所の一部が読み取れた。

その時ひらめいたのが三浦綾子の「海嶺」という本。読んだのは30年以上前になるだろうか。この「海嶺」を読む以前から三浦綾子の著書は「塩苅峠」「氷点」などを読んでいたが、「海嶺」は眼中になかった。たまたま本屋で見つけ、文庫背のあらすじを読んで急に読みたくなりすぐに購入した。上中下の三冊本で一冊の分量もそこそこある。

読み始めると夢中になった。江戸時代も後期に迫ったある日主人公「音吉」を中心にした漂流譚から物語は始まる。故郷の港を出港したのち、大しけに遭遇して漂流、一年以上を漂ったのち北米のカナダ、米国の国境近くに漂着、土着のインディアン？に助けられたものの、扱いは奴隷以下。そこで幾年かを過ごしやっと助けが…。

漂流者の一人が文字が書けたので、助けの手紙を瓶に入れ、流したものを誰かが拾いそれを役所に届けたのだ。もちろん書かれた文字は日本語。読めないから読める者を必死で探し出した。それだけ救出は遅れたが、何とか救出に成功した。音吉たち漂流者はその後、離合しながら運命の地・香港に集結する。この地で「ギュッラフ」に出会うのだ。ギュッラフには大望があった。今は鎖国の地・日本への宣教を考えていた。それには聖書の翻訳が一番手っ取り早い。しかし、それには日本人の協力者が必要だった。音吉たち漂流者を協力者として頼み込む。日本はキリスト教禁令の国、音吉たちが手伝ったと知れば帰国できたとしても、打ち首獄門。しかし、漂流者たちはアメリカに対して多大な恩義も感じていた。

その恩義を逆手に取り半ば強引にギュッラフは福音書の翻訳に取り掛かる。ヨハネ福音書は4福音書の中で最も難解だといわれる。他の福音書に比べ思索的であるからだ。冒頭から翻訳につまづいた。音吉達が訳した「賢いもの」というのは「ロゴス」にあたるがこの解釈が大変だったのである。現代語では「ことば」と訳される。ギュッラフは

ロゴスの意味を様々な比喩を使い教え込もうとする。そしてたどり着いた訳が「賢いもの」。途中、6人の薩摩漂流者も加わり、数年をかけて訳が成る。翻訳を終え、ギュッラフは漂流者の帰国に手を貸す。歴史好きの方は「モリソン号事件」をご存じだろう。音吉たちは「外国船打払え令」で帰国さえ拒否されてしまう。その後の漂流者たちの運命は様々だった。そのくだりは割愛させていただく。

全般にこの手の漂流譚は面白い。井上靖の「オロシヤ国酔夢譚」、吉村昭の「漂流」。野上弥恵子の「海神丸」、漂流譚ではないが海難を扱った司馬遼太郎の「菜の花の沖」等々名作揃いだ。

海老津地区 山口 一隆



今月の聖人

16日 カルメル山の聖母

カルメル山は、イスラエル北部の地中海沿岸を南東に走る、長さ24km、最高峰524mの丘陵です。その美しさは聖書の中でしばしば語られ、神の祝福の象徴として用いられるようになりました（雅歌7.6、イザヤ35.2、エレミヤ50.19、列王上18.17-40、列王下2.25 参照）。

十字軍の時代、キリスト教徒の隠遁者がこの山の洞窟で生活するようになりました。13世紀に入ると、彼らは集まって一つの修道家族を作り、エルサレムの総大司教アルベルトが与えた会則を受け入れて、カルメル会が発足しました。

カルメル山からはガリラヤの平原を見渡すことができ、マリアが生活したガリラヤの近くであることから、カルメル会は初めから観想者であるマリアの保護のもとに自分たちを置きました。16世紀の偉大なる2人の教会博士、カルメル会の改革者アピラの聖テレジアと十字架の聖ヨハネは、カルメル山登攀（とうはん）をボナベントゥラがいう「神に向かう道」のシンボルとしました。わたしたちは、聖母マリアの祈りに支えられて、神秘の山、キリストに近づくことができるのです。



委員会等報告

2024年6月分

6月度小教区委員会 6月2日

1. 行事予定

- 7月 7日(日) 11時～ミサ
ミサ後～小教区委員会
- 7月 14日(日) 9時～ミサ
ミサ後～教会学校
- 7月 20日(土) 直方教会の子どもたちとの交流会(Day キャンプ) & ベトナム人大神学生の歓迎会(直方にて)。
- 7月 21日(日) 11時～ミサ
18時～ベトナム語ミサ
※2名のベトナム人大神学生が来訪。
- 8月 4日(日) 11時～ミサ
ミサ後～小教区委員会
- 8月 12日(月) <地区宣教司牧評議会主催 聖書講座(平和の集い)> 10時～11時半、小倉教会にて。
- 8月 15日(木) <聖母の被昇天>
9時～ミサ
- 8月 18日(日) 11時～ミサ
18時～ベトナム語ミサ

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

- ① 広報委員会
 - 特になし
- ② 典礼委員会
 - 特になし

③ 総務委員会

- 特になし

④ 財務委員会

- 信徒総会での指摘を受け、会計報告に関して改善できるところは改善する。

⑤ 営繕の部

- 特になし

⑥ 納骨堂管理の部

- 特になし

⑦ 冠婚葬祭の部

- 特になし

⑧ 北九州地区宣教司牧評議会

- 8月 12日(月) 10時より、第3回目の地区宣教司牧評議会主催の聖書講座が小倉教会で行われるが、今年は、これが地区の平和の集いとして位置づけられており、子どもたちへのプログラムも別途企画されている。参加を。

(2) 信徒総会を振り返って

- 小グループへの理解や参加などを促すため、来年度以降の信徒総会では小グループそれぞれの活動内容・目的や年間活動計画などを資料としてまとめ、各自に配布していただく。

(3) 2027年7月16日の福岡教区設立100周年に向けての具体的な意識づけ、動きについて

- 委員会や小グループがそれぞれ集まり、

『宣教司牧方針』をあらためて読み返すことで、既存の活動の意義の確認や活動を充実させていくようにして欲しい。作業のために集まることの前に、意識共有のための集まりを開く(『宣教司牧方針』で書かれてある内容をそれぞれの小グループがどのように受けとめていくのかを共有するため、そして、そのことに基づいて活動を行っていくため)。

(4) 聖歌隊について

・現在、聖歌隊の代表者が不在となっている。聖歌隊の存在意義は大きいですが、代表者が不在のままでは小教区委員会および典礼委員会との連携ができないため、まずは、現在の「聖歌隊」が「セシリア会」と「詩編を歌う会」を一つにしたグループであることに基づき、代表者を選定していただく。ただし、その代

表者の位置づけは典礼委員会に出席する際の代表者というものであり、あくまで「聖歌隊」をまとめるのは「典礼委員会」。よって、「典礼委員会」に出席する代表者は「聖歌隊」と「典礼委員会」との意思疎通と連携のために「典礼委員会」が開かれる前後に「聖歌隊」に関わる信徒を集める役割が伴う。

(5) その他

・聖堂用にコードレス掃除機を導入してはどうかとの意見があるが、充電場所、保管場所等の懸念があるために保留。
 ・第5週目の全員での掃除分担について、地区ごとに分かるように分担表を貼り出しておく(今年度は6/30、9/29、12/29、3/30の計4回)。

7月のおしらせ

★巡礼旅行の申し込み★

今年も9月23日(月)に巡礼旅行を行います。今回の巡礼のテーマは「熊本城周辺の教会巡りと花岡山の歴史」についてです。その参加申し込みの締め切りが、7月28日(日)です。申し込み用紙が聖堂後ろにありますので、内容を確認されて、期日までに申し込みをお願いします。保険をかける関係で、名前等間違えずにご記入ください。なお、行程の詳細については、後日せつめいがあります。

★Day キャンプ★

日時：7月20日(土)

直方教会の子ども達と一緒に交流会を行います。詳しい日程・内容については、ミサ中のお知らせや掲示板をご覧ください。

